

公共事業再評価調書

整理番号 H24-8

担当部課名	県土整備部 道路課	電話番号	017-734-9651
		E-MAIL	doro@pref.aomori.lg.jp

再評価実施要件	未着工	長期継続 () 年	再評価後 (5 年)	その他 ()
---------	-----	------------	-------------	---------

1 事業概要

事業種別	道路改築事業		事業主体	県	市町村	その他 ()		
事業名	県道改築事業		地区名等	松代町陸奥赤石 (停)線 深谷町	市町村名	鱒ヶ沢町		
事業方法	国庫補助	交付金	県単独	財源・負担区分	国 65 %	県 35 %	市町村 %	その他 %
採択年度	平成 10 年度 (用地着手 平成 14 年度 / 工事着手 平成 15 年度)							
終了予定年度	平成 30 年度 (平成 年 月 工期変更 再評価時 平成 年度)							
事業目的	本路線は、西津軽郡鱒ヶ沢町大字松代町の主要地方道弘前岳鱒ヶ沢線との交差点を起点とし、一般国道101号に至る延長約17.4kmの道路である。本路線は、岩木山からミニ白神や赤石溪流、くろくまの滝を經由し白神山地に至る重要な観光道路であるとともに、沿線集落と弘前市を結ぶ生活道路でもある。本路線のうち当該工区は、幅員が狭く急勾配・急カーブ区間が連続し交通の隘路となっていることから、これらの解消を図るため整備を行うものである。							
主要内容	区 分		再評価時	再々評価時	増 減			
	計画延長		6,680 m	2,760 m	3,920 m			
	計画幅員		5.5(7.0) m	5.5(7.0) m	0 m			
	改良工		6,646 m	2,760 m	3,886 m			
	舗装工		46,216 m ²	19,500 m ²	26,716 m ²			
	橋梁工		3 基	1 基	2 基			
県代行整備済区間(町道時、S52~H2、L=1,975m)を含む深谷地区~黒森地区までの延長約3.9km区間については、貴重な森林資源等の周辺環境に大きな影響を与えることが予想され、工事着手に至るまでには長期間の年月を要するとの判断から、地元や関係機関との協議や今後の交通動向の推移を見極めながら、当該計画から分離した形で別検討を継続していくこととした。								
事業費	再評価時総事業費 2,624 百万円 (単位:百万円)							
		~21年度	22年度	23年度	24年度	小計	25年度~	合計
計画								0
(うち用地費)	()	()	()	()	()	()	()	(0)
年月変更								
実績					0			0
(うち用地費)	()	()	()	()	(0)	()	()	(0)

2 評価指標及び項目別評価

(1) 事業の進捗状況

(A) ・ B ・ C

事業の進捗状況	事業費割合		計画全体に対する進捗		年次計画に対する進捗	
	(うち用地費)		% [/]		% [/]	
			() % [/]		() % [/]	
	主要工種 毎割合 (事業費)	改良工 (百万円)	%	別紙	%	%
	橋梁工 (百万円)	%	%			
	舗装工 (百万円)	%	%			
説明	【再評価時の計画】 平成19年度の再評価時に計画変更を行っているが、引き続き公共事業費削減傾向の中で他優先工区への重点配分が続いており、当該工区への事業費配分は制約される状況が続いている。計画全体に対する進捗率は7.5%、年次計画に対する進捗率は10.5%と低調となっている。 【計画見直し】 計画見直しに伴い平成24年度までの進捗率は、計画全体に対して21.9%、年次計画に対して30.7%となる見込み。					
問題点・ 解決見込み	【再評価時の計画】 起点部において、用地難航箇所(共有地)が存在することが判明し、用地問題の解決に不測の時間を要しているが、部分的な道路計画の見直しにより対応が可能となった。 【計画見直し】 県代行整備済区間(町道時、S52~H2、L=1,975m)を含む深谷地区~黒森地区までの延長約3.9km区間を再整備(バイパス化など)することは、貴重な森林資源等の周辺環境に大きな影響を与えることが予想され、工事着手に至るまでには長期間の年月を要するとの判断から、地元や関係機関との協議や今後の交通動向の推移を見極めながら、当該計画から分離した形で別検討を継続していく。					
事業効果 発現状況	(部分供用なし)					

(2) 社会経済情勢の変化

(A) ・ B ・ C

社会的評価	全国・本県における評価	<p>【全国の評価】</p> <p>平成21年3月に閣議決定された「社会資本整備重点計画」では、地域社会の活力を維持し、豊かな暮らしを実現するため、また、安全で信頼性の高い社会の実現を図るために、選択と集中の方針の下、重点的・効率的に道路整備を進めていくことが必要とされている。</p> <p>従来事業評価手法を見直し、道路における防災機能の位置づけを再検討する機運が高まっている。</p>	<p>【県内の評価】</p> <p>自動車交通への依存度が高い本県にとって、道路整備に対する根強い要望がある。</p> <p>東日本大震災(H23.3.11)を契機として、これまで道路に必要とされてきた通行機能に加えて、災害発生時の防災機能(緊急物資輸送や避難路等)確保の重要性が再認識されている。</p>	
	当地区における評価	観光道路、生活道路の両機能を確保しなければならない本路線の現状の改善が求められている。		
必要性	<p>鱒ヶ沢町の主要観光地であるミニ白神や種里城址・赤石溪流、くろくまの滝へのアクセス向上を図るとともに、岩木山から白神山に至る津軽西部の主要観光地をつなぐルートの一部を構成する重要な観光道路でありながら、現状は1車線道路であるため観光バスがすれ違えないことから、観光道路としての機能確保のためにも現状改善の必要性がある。ただし、県代行整備済区間(町道時、S52~H2、L=1,975m)を含む深谷地区~黒森地区までの延長約3.9km区間については、当該計画から分離した形で別検討を継続していく。</p>			(a) . b
適時性	<p>本路線は山子集落 深谷集落 細ヶ平集落 黒森集落間を連絡する唯一のライフラインとなっている。観光道路、生活道路の両機能を確保しなければならない本路線の現状は1車線道路であるため、現状改善の必要性がある</p>			(a) . b
地元の推進体制等	地元鱒ヶ沢町から早期の現状改善が求められている。			(a) . b
効率性	2車線確保により、沿線住民の利便性向上や観光ルートの確保が図られる。			

(3) 費用対効果分析の要因変化

(A) ・ B ・ C

区分	主な項目	再評価時	再々評価時	増減
費用項目 (C)	(1) 事業費	1,888 百万円	746 百万円	1,142 百万円
	(2) 維持修繕費	352 百万円	140 百万円	212 百万円
	(3)	百万円	百万円	0 百万円
	(4)	百万円	百万円	0 百万円
	(5)	百万円	百万円	0 百万円
	総費用	2,240 百万円	886 百万円	1,354 百万円
便益項目 (B)	(1) 走行時間短縮便益	1,643 百万円	750 百万円	893 百万円
	(2) 走行費用減少便益	39 百万円	44 百万円	5 百万円
	(3) 交通事故減少便益	- 百万円	0 百万円	0 百万円
	(4) 冬期便益	1,162 百万円	177 百万円	985 百万円
	(5) 防災便益	313 百万円	241 百万円	72 百万円
	総便益(B)	3,157 百万円	1,212 百万円	1,945 百万円
	地域修正係数()	-	1.507	
	修正総便益(B')	- 百万円	1,826 百万円	1,826 百万円
費用便益比	費用便益比(B/C)	1.41	1.37	
	修正費用便益比(B'/C)	-	2.06	

費用対効果分析 (B/C)	<p>【費用対効果分析手法】(分析手法、根拠マニュアル等)</p> <p>費用便益分析マニュアル(平成20年11月 国土交通省道路局、都市・地域整備局) 道路整備事業における県独自の費用便益分析実施要綱(平成22年3月 県土整備部道路課)</p>	(a) . b
再評価時との比較	<p>【再評価時との比較における要因変化】</p> <p>交通量見直しによる下方修正(計画交通量:656台 506台) 検討年数の見直し(40年 50年、費用便益マニュアルの改正) 車種別時間価値原単位の下方修正(費用便益マニュアルの改正) 地域修正係数の新たな導入(平成22年3月~)「津軽地方生活圏1.507」</p>	(a) . b

(4) コスト縮減・代替案の検討状況		(A) · B · C
コスト縮減	【コスト縮減の検討状況】 路盤材、舗装合材に再生材を使用し、経費の縮減を図っている。 伐根材のチップ化による法面保護により、経費の縮減を図っている。 再評価時における計画変更において、整備ルートを大きく見直すことにより約29億円のコスト縮減となっている。	(a) · b
代替案	【代替案の検討状況】 再評価時において整備ルートを大きく見直すことにより約29億円のコスト縮減が図られ、地元の理解を得ることも出来ていることから、現計画を最適案とした地元との共通認識のもとに事業を進めている。	(a) · b

(5) 評価に当たり特に考慮すべき点		(A) · B · C	
住民ニーズの把握状況	【住民ニーズの把握方法】 鯉ヶ沢町から早期整備が要望されている。	【住民ニーズ・意見】 当該区間は、現道の車道幅員が狭小のため車両のすれ違いに支障をきたしており、生活道路及び観光支援道路として位置づけられている現状の改善が求められている。	(a) · b
環境影響への配慮	【開発事業等における環境配慮指針への対応】 (1)対応状況 配慮している 配慮していない (2)区分 農林地等の緑地や植生の改変 地形や地盤の改変 水系や水辺の変更 海域環境の変更 敷地整備段階での重機の使用 土砂等の搬出・搬入 廃棄物処理等 道路(車歩道)、雨水排水路の設置 基礎や地下建造物の建設 低層建築物の建設 高層建築物・大規模施設等の建設に係る環境配慮 高架構造物の建設 海底・海中建造物の設置や建設 (3)特に配慮する対応内容 工事及び土砂搬入・搬出の際には、周辺環境に配慮し、低排出ガス・低騒音並びに低振動の重機械を使用する。 表土露出箇所については、景観保全や土砂流出に配慮し植生対応を行う。 県代行整備済区間(L=1,975m)の再整備方針については、白神産地核心部同様の森林資源を有している周辺環境への影響に配慮した見極め検討が必要と考えられ、関係機関との協議を含め対応策を検討していくこととしている。	(a) · b	
地域の立地特性	(地域指定) 過疎地域、振興山村地区、農業振興地域、特別豪雪地帯 (災害の記録) なし (危険箇所情報) なし		

3 対応方針(事業実施主体案)

総合評価	継続	計画変更	中止	休止(林政課及び漁港漁場整備課所管事業に限る)
評価理由	県代行整備済区間(町道時:S52~H2、L=1,975m)を含む深谷地区~黒森地区までの延長約3.9km区間を再整備(パイプ化など)することは、貴重な森林資源等の周辺環境に大きな影響を与えることが予想され、工事着手に至るまでには長期間の年月を要するとの判断から、地元や関係機関との協議や今後の交通動向の推移を見極めながら、当該計画から分離した形で別検討を継続していくこととし、対応方針は「計画変更」とした。			
備考	【計画変更の内容】 ・計画延長 L=6,680m L=2,760m ・事業費 C=2,624百万円 900百万円			

4 公共事業再評価等審議委員会意見

委員会意見	対応方針(案)どおり	対応方針(案)を修正すべき
委員会評価	継続	計画変更 中止 休止(林政課及び漁港漁場整備課所管事業に限る)
附帯意見	(附帯意見がある場合に記載)	
評価理由	(委員会意見が「対応方針(案)を修正すべき」の場合に記載)	